2026 年 3 月期第 3 四半期 決算説明会 質疑応答要旨

開催日： 2026 年 1 月 30 日（金）17：00～17：30
発表者： 東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社 執行役員 前田 祥治

Q: 外株について伺いたい。10 月に外株の委託手数料を 4 割程度、仕切りでも 2 割程度引き上げているように見えるが、平均どの程度手数料率が上がっているのか。また、手数料を上げた割には収益があまり増えていないように見えるが、取引が他のアセットクラスや他社に流れているということはないのか。
A: 外株の手数料の引き上げについては、認識の通り 3 割から 4 割程度の引き上げとなっている。実際の手数料収入は、東海東京証券で第二四半期比増加しており、これは引き上げた率と同程度全体の数字として上がっている状況。委託売買代金は第二四半期比若干減少しているが、取引が他に流出しているといった認識はない。

Q: 配当について伺いたい。第二四半期と第三四半期で売却益が続いているが、普通株配当については、こういったワンタイムゲインを含んで 50%の配当性向で配当し、その上で特別配当を上乗せするという考え方でよいか。
A: 認識の通り全体数字をみて、（普通配当については）50%程度を目途として配当を決め、記念配当はあくまでも別枠という方針で考えている。

Q: 外株について伺いたい。10 月に外株の手数料率を引き上げたそもそもの背景は何だったのか。また、他社では日本株の手数料率を上げたところもあるが、御社でも他のプロダクトで手数料を上げる可能性はあるのか。
A: 手数料率を引き上げた背景としては、当社では長らく手数料率を上げてこなかったことがあり、昨今の物価高騰などを受けて、証券業界全体でも手数料の見直しが進んでいる状況を踏まえ、経営判断として外株の手数料を引き上げることにした。他のプロダクトについては、現時点で決定しているものはないが、他社の動向も注視しつつ、総合的に判断していく方針である。

Q: 1 月以降の収益環境についてコメントをいただきたい。
A: 第 3 四半期に関しては、10 月の業績は株式委託手数料等を主因に大きく伸び、今中期経営計画（2022 年 4 月以降）で最高の営業収益を計上。
11 月と 12 月は今年度中、好調であった 7 月や 8 月と同程度の成果を確保できた。
1 月についても、月前半の日本株の伸長もあり、12 月に引き続き順調に推移していると捉えている。

※本資料は、2026 年 1 月 30 日開催の「2026 年 3 月期第 3 四半期 決算説明会」における発言に基づいて作成されたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありま

せん。なお、本資料で使用しているデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますので、ご了承ください。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、または約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。